

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表： 2022年 4月 8日

事業所名 個性が花咲くりょういく ファミーユ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○	利用時間を少しずつずらして、在室利用者5名以下を目標にしています。	2022年5月より、指導訓練室の増床を行います。
	2	職員の配置数は適切である	○		個々に配慮できるよう非常勤のスタッフ含め不足に対応しています。	個別療育ということもあり、スタッフと利用者が1対1で関わる場面も多く、夕方の利用が重なる時間帯においては1人で複数人の対応をすることもある。利用時間帯を調整し、一人ひとりと関わる時間がしっかりとることができるよう今後も調整していきます。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		運営規程の第8条に主たる対象者は身体障害を除いた知的障害と精神障害と定めているため、現状、配慮を必要とする利用者はいないが、利用者全員が使いやすい施設を目指してまいります。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		毎日、振り返りと当日の支援の確認を行っています。	毎日の振り返りの他に、定期的に事業内容見直しの話し合いを行っています。今後も継続していきます。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		全員に共有し、課題を洗い出し改善案を話し合っています。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		HPにて公表しています。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		今後検討してまいります。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		各自、必要と感ずるテーマを提案し研修を行っています。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者の了解、確認を得ながら3～6か月の周期で計画を作成しています。また、作成された計画を全員が共有し、一貫した支援ができるよう心掛けています。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		自社作成のアセスメントシートを利用しています。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		全員参加のミーティングにて行っています。スタッフ全員がチームとして連携できています。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		PDCAサイクルに取り組み、一人ひとりにフィットしたプログラムを行っています。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		現状、平日・休日で課題を変えることはありませんが、今後、休日の特別プログラムを取り入れる予定です。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎朝、ミーティングを丁寧に行っています。		
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		一人ひとりの過ごし方や課題を振り返り、次回以降の支援に活かしています。		
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		その日に担当したスタッフが支援記録を詳細に記録しています。		

	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		設定した支援計画期間の終了1カ月前を目途にモニタリングを行っています。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○		限られた時間、スペースの中で工夫して取り組んでいます。	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		基本的に児童発達支援管理責任者が出席しています。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		学校側の事情が許す限り、適切に行っています。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○	現状、当該児はいません。	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○	現状、当該児はいません。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○	現状、当該児はいません。	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じ連絡を取っています。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナ禍ということもあり、現状そういった機会は設けていませんが、必要に応じ、今後検討していきます。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している		○		機会があれば参加します。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時や連絡帳、対面、電話、メールなど保護者が連絡を取りやすい方法に柔軟に対応し、必要に応じて連絡を取り合っています。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○	個別の事案に応じて電話などで連絡を取り合っています。	昨年、コロナ禍で開催を見送ったペアレント・トレーニングを2022年度は実施予定です。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時、その他、必要に応じて行っています。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		相談しやすい体制、雰囲気づくりを全員でこころがけて適宜行っています。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		コロナ禍ということもあり、開催を見送ってきましたが、今後、予定しています。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		現状、事案がないですが、体制は整っており、契約時などに説明を行っています。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		おたより、メール配信、掲示板にて毎月定期的に発信しています。	
	35	個人情報に十分注意している	○		インターネット上への掲載や作品展示も、個々への聞き取りを行い個人が特定できない形での掲載・掲出をしています。	
36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		本人の特性の配慮した対応を随時行っています。		

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に1回開催するファミリー展は地域の方に事業所を知っていただき、自由に観覧できる場となっています。	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		年に2回、避難訓練を行っています。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		年に1回、必要な研修を受けています。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○	食品を提供する際には、事前にアレルギーについて把握するようにしている。	おやつや食事の提供が普段ないため、医師の指示書までいただくことはないですが、イベント時などには、個々に聞き取り対応しています。今後、必要があれば診断書や指示書をご提示いただく予定です。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している		○		個々の記録として残しています。今後、そういった事例があれば作成します。

※「いいえ」には「どちらでもない」の回答を含む
